

Furano

2
February
2018

平成29年度 市長と語ろう 地域懇談会



祝 平昌オリンピック
出場決定おめでとう



小特集 根室本線対策協議会
事務レベル検討会議中間報告

1 経費節減策

経費節減策

利用の少ない無人駅の廃止
(過去5年間平均10人/日以下の無人駅)

節減効果(年間)

1カ所当たり約100~200万円

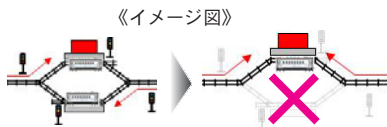
経費節減策

通行量が少なく隣接踏切への迂回が可能な踏切
(通行量が50台/日に満たない踏切)

節減効果(年間)

1カ所当たり約100万円

コスト削減に向けて考えられる主な経費節減策は次のとおりです。仮に、1日の乗車人員が10人以下の無人駅や、通行量が1日50台に満たず隣接踏切への迂回が可能な踏切を廃止した場合、滝川-富良野間で1,300万円、富良野-新得間で1,100万円の経費節減効果が見込まれます。また、使用頻度の低い行き違い設備を撤去することで(イメージ図参照)、1カ所当たり年間約300万円から400万円の経費節減効果が見込まれます。



経費節減策	最大効果(A)	滝川 - 富良野間		富良野 - 新得間	
		箇所数(B)	金額(A)×(B)	箇所数(B)	金額(A)×(B)
利用の少ない無人駅の廃止	200万円	2カ所	400万円	4カ所	800万円
通行量が少なく、隣接踏切への迂回が可能な踏切の廃止	100万円	9カ所	900万円	3カ所	300万円
合計			1,300万円		1,100万円



根室本線対策協議会 事務レベル検討会議

■ 中間報告 ■

4市2町1村で組織する根室本線対策協議会では、平成29年4月に国、北海道、JR北海道と沿線企画担当課長で構成する「事務レベル検討会議」を設置し、鉄道の維持存続に向けた「経費節減策」「利用促進策」「住民意識の醸成策」の3点について議論しましたので、その概要をお知らせします。
企画振興課 ☎39-2304

2 利用促進策

大量・高速輸送という鉄道の強みを発揮し、輸送密度を向上させるためには、沿線住民の日常的な利用を大幅に増加することが不可欠です。そのため、事務レベル検討会議では、仮に考えられる日常的な利用促進策を検討し、年間の効果額を試算した結果、滝川-富良野間で4,800万円、富良野-新得間で1,120万円の増収が見込まれます。

利用促進策	滝川 - 富良野間	金額	富良野 - 新得間	金額
通勤での利用	滝川 - 赤平 - 芦別 - 富良野間の就業者通勤流動の約1割(現在の利用の約10倍)がJRを利用した場合	3,000万円	富良野 - 南富良野(幾寅)間の就業者通勤流動の約1割(現在の利用の約10倍)がJRを利用した場合	600万円
出張での利用	赤平市、芦別市、富良野市における就業者50人が2回/月、札幌までの出張時に往復でJRを利用した場合	400万円	南富良野町(幾寅)における就業者10人が2回/月、札幌までの出張時に往復でJRを利用した場合	40万円
通院での利用	東滝川、茂尻、平岸、上芦別、野花南駅から、各市内の病院への通院で10人/日が往復でJRを利用した場合	500万円	富良野 - 落合間の各駅から、富良野市の病院への通院で2人/日が往復でJRを利用した場合	400万円
買物での利用	赤平市、芦別市、富良野市からそれぞれ20人/日が、札幌での買物時(土・日曜日など)に往復でJRを利用した場合	900万円	南富良野(幾寅)から4人/日が、札幌での買物時(土・日曜日など)に往復でJRを利用した場合	80万円
合計		4,800万円		1,120万円

事務レベル検討会議による中間報告 (抜粋)

1 経費節減策では、駅の廃止、踏切の廃止、行き違い設備の撤去、列車の見直しが考えられ、その効果額は最大で見積もった場合でも、滝川-富良野間で1,300万円、富良野-新得間で1,100万円である。

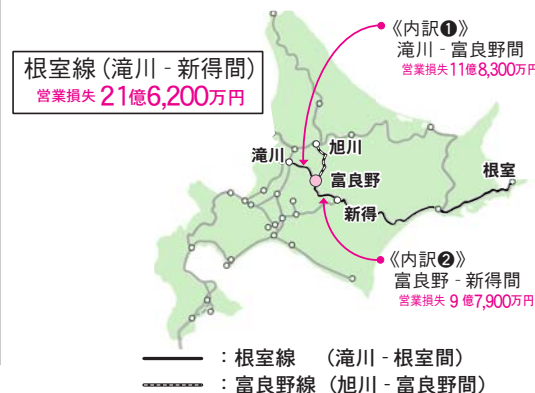
2 利用促進策では、通学・通勤・通院・出張・買物などの日常的な利用が必要不可欠であり、その効果額は最大で見積もった場合でも、滝川-富良野間で4,800万円、富良野-新得間で1,120万円である。

3 経費節減を進めれば利用者は減少し、利用促進を進めれば経費は増額し、経費節減と利用促進は反比例の関係にある。

4 よって、経費節減策、利用促進策、意識醸成策を最大限に行ったとしても、滝川-富良野間の営業損失11億8,300万円、富良野-新得間の営業損失9億7,900万円を抜本的に改善できる状況にはない。

根室線の平成27年度の収入から費用を差し引いた営業損失は、滝川-富良野間で11億8,300万円、富良野-新得間で9億7,900万円となっています。事務レベル検討会議では、設備のスリム化によってどの程度の経費節減が可能か、利用促進によりどれだけの増収が可能かなどについて調査検討を行い、左のとおり中間報告をとりまとめました。

平成27年度の根室線営業損失



告知

鉄道貨物輸送に関する講演会

みなさんと鉄道について考えます



昨年の「市長と語ろう地域懇談会」では、地元農産物運搬の貨物輸送について、多くの意見や要望がありました。そこで今回は、鉄道における物流面に与える影響などを、みなさんと一緒に考える講演会を開催します。

とき 2月20日(火) 午後6時30分

ところ 文化会館大会議室

講演 「富良野の将来づくり」を支える物流

講師 相浦宣徳さん
(北海商科大学大学院教授)

定員 先着150人

参加料 無料

申込み 2月14日(木)までに電話
で申し込みください。



申込/問合せ

富良野市根室本線・富良野線利用推進協議会
(企画振興課内) ☎ 39-2304



毎月行政情報などをお伝えしている、まちづくり情報番組「元気ハツラツ!まちづくり」。2月は「鉄道問題」について分かりやすく解説します。

放送日 2月24日(土) 午前10時~10時45分
放送局 FM77.1MHz (ラジオふらの)



※毎月第4土曜日に市職員が、行政情報などをお伝えしていますので、ぜひ、お聴きください。

根室本線対策協議会事務レベル検討会議 中間報告書



平成29年11月13日

事務レベル検討会議で策定した中間報告書は、市のホームページから閲覧できます。



富良野市 根室本線 中間報告 検索

鉄道の問題について、多くの市民に関心を持ってもらうために、鉄道フォーラムや地域懇談会を開催し、マイルール意識の醸成に取り組みました。



- 1 鉄道フォーラムin富良野の開催 (平成28年11月14日)
- 2 「鉄道」などをテーマにした地域懇談会を市内15会場で開催
- 3 広報ふらのの8月号の特集企画「鉄道編」11ページをA2サイズに拡大し、市内の公共施設や金融機関などの民間施設16カ

所で、8月21日から12月10日までパネル展示を実施

4 農作物を輸送する貨物列車を子どもたちに親しんでもらうため、市内の小中学生を対象に愛称を募集し、288件の応募の中から「ふらのベジタ号」が選ばれ、9月3日の「ふらのワイン・ぶどう祭り」で発表

5 まちづくり講演会の開催 (8月21日)



《事務レベル検討会議の構成メンバー》
滝川市、赤平市、芦別市、南富良野町、新得町、占冠村、富良野市、北海道運輸局、北海道、上川総合振興局、空知総合振興局、十勝総合振興局の課長級職員、JR北海道の部長級職員

11月30日	第2回幹事会 (課長級)
11月13日	中間報告 (首長・議長)
10月3日	第6回事務レベル検討会議 (南富良野町開催)
9月1日	第5回事務レベル検討会議 (芦別市開催)
8月10日	第4回事務レベル検討会議 (赤平市開催)
7月11日	第3回事務レベル検討会議 (新得町開催)
6月29日	JR利用実態調査
6月7日	第2回事務レベル検討会議 (滝川市開催)
6月1日	国土交通省への要請活動
5月31日	国会議員への要請活動
5月30日	千葉県いすみ鉄道視察
5月16日	第1回事務レベル検討会議 (富良野市開催・写真左)
4月27日	根室本線対策協議会総会 (首長・議長)
4月14日	第1回幹事会 (課長級)

根室本線対策協議会検討経過
(平成29年度)

